

第5学年国語科学習指導案

1 単元 目的に応じた伝え方を考えよう

「ニュース番組作りの現場から」「工夫して発信しよう」

2 指導観

○ 本学級の児童の実態

読むことの学習においては、本学級の児童は今までに「サクラソウとトラマルハナバチ」「千年の釘にいどむ」の学習で、段落ごとの要点をとらえたり、文章の構成から要旨をとらえたりする学習をしてきた。段落の中のキーセンテンスやキーワードを見つけ、要点をとらえることはできるようになってきている。しかし、要旨をとらえることについては、結論段落に着目することはできているが、それを文章全体と関わらせて的確に捉えることはまだできていない。

また、「千年の釘にいどむ」の学習では、比較しながら読む読み方を経験している。現代の釘と古代の釘を比べることで、古代の釘の見事さを読み確かめることができた。しかし、自分で比べる対象を見つけることがまだできない児童もいる。

○ 本教材の価値

本教材は、ニュース番組の特集の作り方を追って、ニュースが人々に伝えられるまでをまとめた説明的文章である。最終段落には、筆者が伝えたいこととして番組作りの願い、制作の過程がまとめられており、報道スタッフの思いや願いを読み取ることができる。

文章構成の特質としては、時系列に沿って、報道スタッフの役割や情報収集、編集会議のあり方、伝えたい内容の絞り方などが分かりやすく整理され展開されており、まとめの段落の筆者の主張を納得できるものになっている。そのため、文章構成の意図や、まとめの段落と事例の段落をつないで読む力も育てることができる。

文章表現の工夫としては、「六時間分も」「まとめなければなりません」等、努力や苦勞を表すことば、「○日前です。」「○日前。」「いよいよ」などといった臨場感のある書き表し方の工夫など、巧みに叙述が書き表されていることがあげられ、読み確かめていく中で言葉に着目しながら筆者の意図を読む力も育てたい。

○ 指導にあたって

指導にあたっては、次のような支援と手立てを取り入れていく。まず、読みのめあてでは、題名の「ニュース番組作りの現場から」と「ニュース番組作りの現場」を比べて読むことで、筆者が何か伝えたいことがあることに気付かせる。さらに冒頭をつないで読み、防災訓練が特集として取り上げられるまでの過程と筆者の主張を追求する読みのめあてをつくる。

読みのめあてに対する答えの書きまとめでは、まず、全文をすらすら読めるように音読する。また、難語句を事前にしぼっておき、辞書を引かせて理解させるようにしておく。そして、①については、形式段落に見出しをつけさせることで、おおまかに過程を確認していく。②については、結びの12段落を中心に書きまとめさせる。

学習計画では、2～11段落に書かれている特集として取り上げられるまでの過程と、12段落の叙述を比べさせることで、まとめの段落に書かれている内容への疑問を出し合わせ、具体的にどうということか、それはどの段落のどの言葉から分かるのかを読み確かめる必然性をもたせる。

読み確かめでは、2～11段落の中で、過程ではなく分かったことが述べられている5段落6段落に着目し、二つの段落を比べるとことで筆者の書き表し方の工夫に気づかせたい。

読みのまとめの段階では、読みと読み方のまとめをすると共に、筆者の書き表し方の工夫について自分はどう思うかについてもまとめる。

○ 自分の考えと根拠をもたせる言語活動の手立て

・書きまとめさせ方

比較する対象を見つける視点を与える。

・説明のさせ方

共通点や相違点を分かりやすく書いたり話したりするための文型を与える。

- ・共通点「どちらも～だから・・・。」
- ・相違点「○○は～だけど、△は～・・・。」

3 単元の目標（価値○技能●比較◎）

- 特集番組がどのように作られているのかを説明する筆者の論理をたどりながら、番組作りには、報道スタッフの願いが込められていることを理解することができる。
- 「事例とまとめの段落の言葉をつないで読む」「接続語を読む」などの読み方を身に付け、要旨をまとめることができる。
- ◎ 段落と段落の中心となる言葉や文、接続語、文末表現を比べて読むことで筆者の考えを読み取ったり筆者の表現のよさに気付いたりすることができる。

4 単元計画（全15時間 読む⑧書く⑦）

段階	時間	主な学習活動と内容	指導上の留意点
読みのめあて	1 /	単元名と題名、冒頭をつないで、読みのめあてをつくらう。	
	15	1 単元名から学習の構えをもつ。 2 題名について話し合う。 3 冒頭を読む。 4 題名、冒頭の読みをつないで、読みのめあてを生み出す。	○ 単元名やリード文を読み、この単元が複合単元であることをや、自分たちもニュース番組を作ること知らせ、学習の構えをつくらせる。 ○ 「現場」と「現場から」を比べて、筆者に何か伝えたいことがあることを読み取らせる。 ○ 「特集」と「ニュース」を比べてその違いをとらえさ、「特集番組」とはどんな番組か考えさせる。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 読みのめあて <ul style="list-style-type: none"> ① 防災訓練が特集として取り上げられるまでにどんな過程があるのだろう。 ② 筆者は、ニュース番組作りの現場から何を伝えたいのだろう。 </div>	
読みのめあての答え	2 /	全文を読み、文章の構成を確かめよう。	
	15	1 教師の範読を聞く。 2 音読の練習し、難語句の意味を辞書で調べる。 3 形式段落に番号をつけ、「はじめ」「中」「おわり」の3つの構成に分ける。 4 読みのめあての答えが「はじめ」「中」「お	○ 一人一人の音読を聞き、なかなかすらすら読めない子どもには、漢字にふりがなをうったり、文節ごとに区切ったりする。 ○ 「はじめ」は冒頭である①であることを想起する。「おわり」の⑫段落に過程のまとめや筆者の考えが書いてあることから、過程が「中」である②～⑪に書いてあることをとらえさせる。 ○ 読みのめあて①の答えについては、ま

	わり」のどこに書かれているか話し合う。	ずは「中」を読み、それとつないで「おわり」を読む計画を立てる。	
4 5 /	読みのめあて①の答えを書きまとめよう。		
15	<p>1 「中」の段落を4つのまとまりに分ける。</p> <p>2 ②③段落から、放送十六日前までの過程を読み取る。</p> <p>3 ④⑤⑥⑦段落から、放送八日前までの過程を読み取る。</p>	<p>○ 日付を表す文に着目させ、「中」の段落を4つに分けるようにする。</p> <p>○ ③段落の「さっそく～会議を開きました。」という一文を見つける方が容易だと考えられるため、③を先に読ませた後で②を読み取らせたい。</p>	
	<p>4 ⑧段落から、放送二日前までの過程を読み取る。</p> <p>5 ⑨⑩⑪段落から、放送当日までの過程を読み取る。</p> <p>6 読みのめあて①の答えを書きまとめる。</p>	<p>○ 「同時に」という接続語を読むことで、放送原稿書きが編集と同時に進められていることに気づかせたい。</p>	
	<p>読みのめあて①の答え</p> <p>防災訓練が特集として取り上げられるまでの過程とは、十六日前までに、おどろきから話題を決めて会議を開く。次に、八日前までに取材をし、再び会議を開く。そして、二日前までにさつえいをする。最後に編集と放送原稿を書いて放送する。</p>		
	<p>7 「中」のまとまりで述べられていることが「おわり」にどのようにつながっているか読み取り、筆者の表現の仕方について自分の考えを書き、発表する。</p>	<p>○ ⑫段落と②～⑪段落のつながりを確認し、筆者の表現の仕方について自分の考えをもてるようにする。</p>	
6 /	読みのめあて②の答えを書きまとめて、学習計画を立てよう。		
15	<p>1 「おわり」の⑫段落から、読みのめあて②の答えを書きまとめる。</p>		
	<p>読みのめあて②の答え</p> <p>ニュース番組の特集は、見ている人に知って考えてほしいという願いをこめて作られている。</p>		
	<p>2 読み確かめる計画を立てる。</p>	<p>○ 読みのめあて①の話し合い際に、⑤と⑥だけが過程ではなく、分かったことが書いてあったことを想起させ、計画を立てる。</p>	
	<p>分かったことが書いてある⑤⑥段落を比べて読んで、筆者の書き方の工夫を見つける。</p>		
読み 確	7 /	⑤段落と⑥段落を比べて読んで、筆者の書き方の工夫を見つけよう。	
	15		

か め	<p>1 本時学習のめあてを確認する。</p> <p>2 本時学習する段落を音読する。</p> <p>3 5, 6段落を読み, 共通点, 相違点を書く。</p> <p>4 共通点, 相違点を話し合う。</p> <p>5 本時学習をふり返り, まとめる。 ・筆者の書き方について自分はどう考えたか</p>	<p>○ 学習計画表をもとに, 今日のめあてを確認する。</p> <p>○ 本時に学習する段落を把握するために音読させる。</p> <p>○ 共通点「どちらも～だから・・・。」 相違点「○○は～だけど, △は～・・・。」 という書き出しを与え, 自分の考えを根拠をはっきりとして伝えられるようにする。</p> <p>○ 「また」という言葉が共にに使われているこ気付かせることで, 事例がそれぞれ2つずつ書かれていることを読み取らせ, 板書で視覚的にとらえさせる。</p>
読 み の ま と め	<p>8 / 15</p> <p>読みのまとめと読み方のまとめをしよう。</p> <p>1 本時学習のめあてを確認する。</p> <p>2 読みのめあてにもどって読み取ってきたことをまとめる。</p> <p>3 読み方のまとめをする。 ・筆者の書き表し方の工夫について</p>	<p>○ 学習してきたことを振り返り, 読み取ったことをまとめさせる。</p> <p>○ 掲示物を振り返りながら, 読み方をまとめるようにする。</p>
工 夫 し て 発 信 し よ う	<p>9 / 15</p> <p>自分が伝えたいこと, 相手が知りたいことを考えて, ニュースの特集番組を作ろう。</p> <p>1 特集番組の計画を立てる。</p> <p>2 読み取った内容をもとにして, 取材, 撮影, 原稿作りを行い, 番組を作る。</p> <p>3 番組を発信して, 評価する。</p> <p>4 学習をふり返り, まとめをする。</p>	<p>○ 受け手が関心をもちそうな話題, 送り手である自分たちが関心をもってほしい話題を選ぶようにする。</p> <p>○ 説明文で読み取った内容と, 「工夫して発信しよう」を手がかりに活動の流れ図をつくり, 活動の見通しをもたせる。</p> <p>○ 自分たちの意図や願いが伝わったのはなぜか, また伝わらなかったのはなぜか考えさせる。</p> <p>○ 目的に応じた伝え方をする必要性を話し合い, これからの生活や学習に活用していく意識をもたせる。</p>

6 本時の目標 (7 / 15)

- 二つの疑問に対して取材して分かったことは何か，読み取ることができる。
- 接続語や文末表現，問いかけの文を読む読み方を身に付けることができる。
- ◎ 5 段落と 6 段落を比べて読むことで，筆者の表現の工夫に気付くことができる。

7 本時指導の考え方

前時までに，子どもたちは読みのめあてに対する答えを書きまとめている。その際に，②～⑪段落の中で⑤⑥段落だけが過程についてではなく取材して分かったことが述べられていることに気づき，⑤⑥段落をさらに読み確かめることを計画している。

本時は，二つの疑問に対して取材して分かったことが述べられている⑤段落と⑥段落を比べながら筆者の書き方の工夫を見つける学習である。

本時指導にあたっては，まず，学習計画をもとに本時のめあてと今日の学習の進め方を確認する。そして，本時学習する場面を確認するために，一斉音読をさせる。

次に，⑤段落と⑥段落の共通点と相違点を見つけさせる。その際，筆者の表現の工夫に着目できるように視点を与える。

そして，まず共通点について交流する。「また」が両方の段落に使われていること，「このように」「これらのことから」で両方の段落ともまとめられていること，「のです。」と筆者が断言していることを発表することが予想される。「また」がある時とない時を比べさせることによって，読み手が答えが二つあることに気づきやすいように，筆者が工夫していることに気づかせたい。その後で，センテンスカードを移動させることで，段落の中の構成にも視覚的に気づかせていきたい。

相違点では，一文目が⑥は問いかけの文であることに気づくことが予想される。もし出なかった場合には，⑤⑥段落を音読して比べることで気づかせていきたい。そして，筆者が⑥を問いかけの文にしたのは何故か問い，⑥段落を強調していることを読み取らせたい。

本時学習のまとめでは，板書をたどりながら今日の学習をまとめ，「今日の学習で」に「筆者の書き方を自分はどう思うか」について，「接続語」「指示語」「文末表現」「問いかけの文」の中から 2 点以上について書きまとめさせる。

8 本時の展開 (9/18)

配時	学習活動と内容	指導上の留意点
3	<p>1 本時学習のめあてと見通しを確認する。</p> <p>学習のめあて _____ 分かったことが書いてある⑤段落と⑥段落を比べて読んで、筆者の書き方の工夫を見つけよう。</p>	<p>○ 学習計画をもとに、本時のめあてと今日の学習の進め方を確認する。</p>
2	<p>2 本時場面を音読する。</p>	<p>○ 本時の学習場面を把握するために音読させる。</p>
7	<p>3 ⑤段落と⑥段落の共通点と相違点を見つけて書く。</p>	<p>○ 筆者の表現の工夫に着目できるように「接続語に目をつける」など視点を与える。</p> <p>○ 共通点「どちらも～だから・・・。」相違点「○○は～だけど、△は～」という書き出しを与え、自分の考えを根拠をはっきりとして伝えられるようにする。</p>
13	<p>4 共通点について交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両方の段落に「また」があり、共にに答えが二つ書いてある。 ・「このように」「これらのことから」で両方の段落ともまとめられている。 ・両方とも「のです。」という文末表現があり、筆者が自分で判断した考えを述べている。 	<p>○ 「また」がある時とない時を比べさせることで、2つの答えがあることをわかりやすく述べている筆者の工夫に気づかせる。</p> <p>○ センテンスカードを移動させることで、段落の中の構成にも視覚的に気づかせていく。</p>
13	<p>5 相違点について交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一文目が⑥段落はは問いかけの文であるが⑤段落はそうではない。 ・⑤は「住民感情」⑥は「住民の理解」という言葉を筆者は選んで使っている。 	<p>○ 筆者が⑥を問いかけの文にしたのは何故か問うことで、⑥段落を協調していることを読み取らせる。</p> <p>○ 筆者の言葉の選び方については子どもからは出ないことが予想される。その場合は、最後の文を音読するなどして目をつけさせる。</p>
7	<p>6 本時学習をふり返り、まとめる。</p>	<p>○ 板書をたどりながら今日の学習をまとめる。</p> <p>○ 「接続語」「文末表現」「指示語」「問いかけの文」の3点について「今日の学習で」に書きまとめさせる。</p>